ＪＲ東海労なごや

2018年10月1日　No. 1116
ＪＲ東海労名古屋地方本部
発行者：　荻　野　　隆　一
編集者：　教　　宣　　部

異常気象が常態化傾向！

あらゆるデーターを活用して安全確保を！

気象庁が最近の異常気象について「大雨の日数は長期的に増える傾向にある」と発表しました。運輸に関わる私たちには、今まで以上の安全・事故防止対策が求められています。

名古屋地本は、先の豪雨被害を受けた高山線について「申５号　JR高山土砂流入に伴う緊急申し入れ」を行い、9月21日、災害時の安全問題、現場社員の安全確保、健康管理、乗務員運用などの問題点について業務委員会にて議論してきました。

私たちは、災害が発生する都度、会社に早期に列車を止め安全確保することを要求してきたところですが、今回災害時は、高山市にある社外の雨量計、飛騨小坂の社内雨量計及び気象庁のレーダーにより規制をかけ列車を止めたということで、社内の雨量計のみに限らず社外の活用できるデーターを利用して情報を把握したことは今後の重要な指標となることでしょう。

現場の作業員の安全確保と健康管理、乗務員運用、旅客対応について議論

記録的な猛暑の中、現場で復旧作業に当たる社員、協力会社社員の健康管理に対しても、復旧現場においては、「エアコン機能のついた災害バスを配備し、作業員の休憩場所にした」と説明されました。

該当運輸区での変更路作成が直前まで決まらず、交番作成者や乗務員が大変な苦労をしたこと、また、高山線は外国人観光客が多く利用していることから、駅での案内や対応、地元の足としての代行バスの問題なども議論を行いました。

今後の安全確保のために

今回の災害では、甚大な被害にも関わらず幸いにも人的被害には及びませんでした。しかし、この異常気象があたりまえとなるような状況の中で、いかに鉄道の安全を確保していくかは今後の大きな課題です。

私たちJR東海労は、安全を確保するため、提案し、議論し、運動を推し進めます！